



## 教育の原点について考える ー子どもの幸せを願うとはー

校長 井之上 良一

枯れ葉舞う季節となり、冬の気配を感じる今日この頃です。早いもので、二学期も残すところ、1か月余りとなりました。学校では、13日(水)に県教育委員会、22日(金)に市教育委員会と相次いで学校訪問があり、本校の教育活動に対しまして、外部の皆様方から様々な御意見を頂戴することができました。

過日、御協力をいただきました保護者や学校評議員の皆様方を対象にした「学校の教育活動に対するアンケート調査」結果等も併せて参考としながら、今後の学校運営を改善していきたいと考えております。

さて、大正3年に非行少年の教育、指導に当たる学校として設立され、現在は、児童自立支援施設となっている「北海道家庭学校」の校長を30年あまりも務められた谷昌恒(たに まさつね)という有名な先生がいます。その谷先生の講演を直接聴いたある幼稚園の園長先生が、子育てに関して次のような話を書いておられました。少し長くなりますが、引用してみたいと思います。

「谷先生は、『家庭学校』に来る子どもには似たような傾向が見られるとよく語っておられます。すなわち、元々暴れん坊でどうしようもない子どもはほとんどいなくて、10人のうち9人までが小さい頃は実はいい子だったらしいのです。

ではなぜ、そのいい子が『家庭学校』でお世話になることになってしまうのでしょうか。それはこういうことのように。両親は子どもの意に沿うように意に沿わないことはさせないという子育てをしてきた。つまり、何でも言うことを聞くいい子でいるように、家庭の中で大切に育てられるわけです。子どもにとっては至極快適な環境です。子どもの生きる世界が『家庭』という小さな範囲のうちにはそれで問題は起こりません。

ところが、成長に伴い、学校、そして社会へと住む世界が広がっていきます。そうすると、うまく適応することができなくなり、その社会からはじき出されるということが起きます。そうした試練に出会うと、すごすごと家に戻ってくる。その時が、子どもの変わる時だそうです。

『どうして俺をこんなふう育てたんだ!』

それから突然家庭内暴力や非行に走り、最後は『家庭学校』にやって来るのだそうです。」

世の中(人間関係)や仕事(職業の世界)は面倒なことだらけです。人間は面倒なことをいやがらずにこなしていくうちに精神的にも大人になっていくものだと思います。家の手伝いにせよ、あいさつにせよ、部屋の片

付け(清掃)にせよ、靴を揃えることにせよ、面倒なことを子どもにさせることは、将来を生き抜く力を少しずつ授けることに他ならないとも言えます。

近頃は、家庭の教育も学校の教育も子どもの気持ちや気分が基準になり、それに迎合したり妥協したりして、人間の根幹をつくる努力が軽視されているということがよく指摘されています。こうした指摘は、一面で正鵠を射ており、「子どもの幸せを願う」という教育の原点に立ち返るならば、また、「人はいつかどこかで花を咲かせることができる」と子どもの可能性を信ずるならば、私たちが努力すべきことは自ずと指し示されているのではないのでしょうか。

さて、キリスト者でもあった前述の谷先生は、少年たちの深い心の傷を自分の痛みとしながら、その更生に力を尽くされました。そして、豊かさの中で心の貧困が指摘されている今の時代を生きる私たちに、人間愛に満ちた次のような言葉を残されています。

「自分で病んで、はじめて健康の大切さが分かります。心が病んで、素朴さ、謙虚さ、そのたとえようもない美しさが分かってきたように思うのです。・・・まことに、心の貧しい者が幸せであることを思うのです。」



北海道家庭学校正門風景

## 避難訓練 11/9

日置市消防本部の御協力をいただき、火災を想定した避難訓練を実施しました。今回は、生徒・職員全員で消火訓練も行いました。操作も当然ながら、大きな声で周りに火事を知らせることが大切だと改めて感じました。中学生は、災害時には支援を行う側になります。今回学んだことをいざというときに行動できるよう、日頃から防災意識を持つようにしましょう。



【お知らせ】 11月13日から、1・2年生の理科の授業を比良信幸(ひらのぶゆき)先生に担当していただくことになりました。比良先生は、本校の昭和35年度の卒業生で、現在剣道の指導に来られている仮屋基美先生の一学年上の先輩にあたります。県内各地の中学校で教鞭をとられ、鹿児島市立鴨池中学校で校長先生をお務めになり退職された後も、鹿児島育英館中学校・高等学校で教頭先生として手腕を発揮されました。また、本年6月まで日置市教育委員会教育委員として活躍されました。今回、母校、後輩たちのためにと、急なお願いにも関わらず代替講師をお引き受けいただきました。

## 第2回学校評議員会 11/1

学校経営や学校運営について御意見や評価をいただく学校評議員会を開催しました。評議員の皆様からは、運動会や地域ふれあい活動、文化祭など生徒が一生懸命頑張る姿に地域も元気付けられ、「生徒一人一人が主役」ということが体現されているなど、お褒めの言葉をいただきました。

また、来年度から地域学校協働活動を進め、令和3年度にコミュニティ・スクールを導入する方針に御理解をいただくとともに、学校のために地域は何ができるのか、地域のために学校は何ができるのかという視点で準備を進めてほしいという御意見をいただきました。今回の御意見等を今後の学校経営に生かしてまいります。



## カウンセリング体験

本校は、県からスクールカウンセラーを年間4回派遣していただいています。今年度も昨年度から引き続き、瀬戸口悦子先生が来校され、カウンセリング体験を実施しています。9月に1年生、11月に3年生で実施し、カウンセリングとはどのようなものかを理解してもらうことが目的です。実際に体験してみて、気軽に話せることが分かったのではないのでしょうか。心の不安や悩みは、誰かに相談することで解消されることが多々あります。最近では、電話やSNS等で相談することもできます。困ったときは、一人で抱え込まず、相談することを考えてみましょう。



## 保健タイム 11/8

「いい歯の日」に合わせ、歯科校医のふくはら歯科医院の福原博一先生をお招きし、歯科指導を実施しました。4月に続き、今回2回目の歯科検診を実施し、口腔の健康状態が改善されているか確認していただきました。4月と比べると、歯垢、歯肉の状態は全体的に良くなっているものの、治療が完了しておらず、むし歯保有者数は変わっていない状況でした。冬季休業等を利用して治療を進めていただきたいと思います。

また、歯垢の染め出しを行い、正しい歯みがきができてきているか一人一人に指導をしていただきました。歯ぐきとの境目や奥歯の溝などに磨き残しが多かったようです。正しいブラッシングで、健康な口腔状態を保ちましょう。



## 2学期末PTA 11/15

保健体育（剣道）の授業参観と第2回学校保健委員会、学級PTAを開催しました。御多用中にも関わらず、9割を超える保護者の皆様に出席をいただきました。心から感謝申し上げますとともに、この出席率の高さが生徒たちの成長につながっていると改めて感じることでした。学校保健委員会では、生徒の健康状態をお伝えするだけでなく、口腔の健康について考えたり、リフレーミングについて学んだりする機会も設けました。今回の学習が、子育てに少しでもお役に立てることを願っております。



## 第3回小中一貫教育研修会 11/11

今年度3回目の土橋小学校との小中一貫教育研修会を開催しました。今回は、岡村博樹教諭の保健体育の研究授業を参観し、授業研究を行いました。授業はバスケットボールで、チームごとに前時の課題を振り返って目標を設定する話し合いを行い、共通する課題を解決するために練習をして、実戦で確認する内容でした。授業研究では、話し合い活動を行いながらも運動量が十分に確保されていた点、生徒たちが主体的に活動していた点などが岡村教諭の日頃の研究・実践の成果として挙げられました。



日	曜	12月の主な行事予定
2	月	おひさまあいさつの日 人権週間（～8日）
6	金	伊集院地域PTA連絡会情報交換会
8	日	いじゅういん梅マラソンジョギング大会
10	火	人権教室 巡回図書
11	水	新年度PTA役員選出に係る話し合い
14	土	土曜授業 校内持久走大会
16	月	学校専門部会
17	火	代議員会
18	水	2年高校訪問
19	木	校内推薦委員会
24	火	終業式 PTA小中合同校外補導
27	金	仕事納め